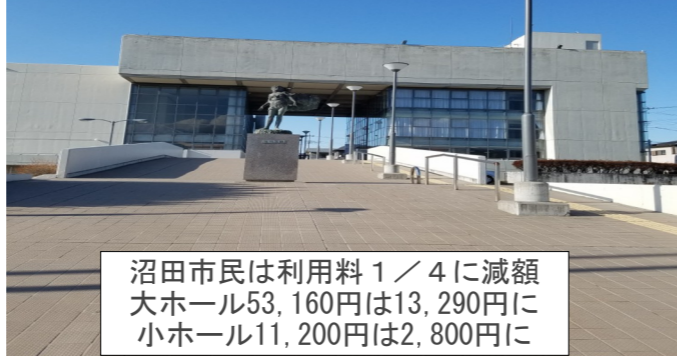


保健福祉センター改修工事に1億4,795万円 愛称「ウエルプラザ」＝多機能複合施設へ再生



沼田市民は利用料1/4に減額
大ホール53,160円は13,290円に
小ホール11,200円は2,800円に

文化活動団体からの強い要望を受け、中央公民館の代替施設の一つとして保健福祉センターが改修されます。これまでの福祉の拠点としての機能に加え、文化活動や市民活動にも利用できる「多機能複合型施設」として整備されます。

1階には音楽活動に利用していただけるようスタジオを整備、多様な方々の利用を視野に多機能型トイレの整備、エレベータの改修、3階には大人数で会議の出来る大会議室を整備し、多様な方々が利用可能な施設として「生まれ変わり」ます。



音楽活動支援を視野に遮音カーテンが



洋館の中の和室には茶室も整備

文化活動団体の代替施設の確実な充実へ 福祉と生涯学習そして、これまで未利用だった方々へ

中央公民館という、これまで沼田市の文化活動の「拠点」の役割を担ってきた施設が解体されました。悲しまれる方、困惑される方々も当然いらっしゃると思います。しかし、拠点がなくなるのではなく「エリア」としての「拠点」は、これまで以上に充実されて「再生」つまり生まれ変わると考えていただきたいのです。

右肩上がりの経済成長に支えられた「大量生産・大量消費、大量廃棄の時代」と言われた20世紀

は去り、社会の課題も重層化、複合化しています。単独で専用施設を多数設置し、維持管理運営していける状況も厳しくなります。

私は、こうした状況を積極的に受け止め、現在活動中の団体が様々な世代、新しい趣味、新たな社会課題に関心を持つ方々と「接点」を持つきっかけとなる21世紀型の複合施設として、多様な市民に利用される「拠点エリア施設」として、再スタートしていくことを切望しているのです。



地区コミセンで開始された地域課題検討 子育て支援や介護予防もOK

昨年度より市民協働とお互い様のまちづくりの整理と相乗効果を向上させる狙いで、高崎経済大学の櫻井常弥氏を専任講師に地域づくり研修会を各地区コミュニティセンターで開催しています。当然、子育て支援や介護も生活支援という地域課題です。

歩む会ニュース

発行責任者 高柳勝巳 〒378-0055 沼田市柳町2583-8 ルピナス103号 ☎ 25-8062
ホームページ <http://www.ayumu-kai.jp/> Eメール xx.takayanagi-po@au.wakwak.com

今期をもって市長を勇退し、目途を付けた「新時代の沼田市づくり」を後進に譲りたい！とした横山市長の功績や課題を検証し、今後の沼田市が目指すべき方向や「未来像」議論の素材となればと考へ、一般質問に立ちました。



高柳質問 横山市長2期8年の評価は しあわせが実感できるまちづくりの達成度は 市長答弁 1期目はハード・2期目はソフトの基盤



フィンランドの首相
サンナマリン氏
出典：ウィキペディアより

高柳意見 そして、その国のリーダーは女性 オーロラとサンタクロースの村で有名な 世界一しあわせな国はフィンランド

毎年、国連が調査機関に依頼して、国際女性デーの3月8日に発表される「幸福度ランキング」で1位は、4年連続で北欧のフィンランドでした。横山市長の目指す沼田市は、過度に経済に依存せず人生の自由度と他者への寛容性の高いフィンランドなのかもしれません。

当時34歳、世界一若い女性トップリーダーが、多くの女性閣僚と共に、その感性と手腕を存分に振るっている国がフィンランドと聞きます。裕福と幸福をしっかり見極め、効率だけを追わず、相乗効果の発揮される社会こそが、未来の子ども達のための社会なのではと考へます。

横山市長が「次世代」へ植えた種 高柳が一般質問で聞き、勝手に解説



高柳高度成長期の真っ只中であった昭和、右肩上がりの人口、経済成長、それを大前提としていた「ほぼ単一の価値観」による大多数を一括りにして「人生・社会の成功者」がモデル化されていました。経済指標にあまりに偏った、むしろ依存した政策の転換は図れず、「令和の時代」を向えることになりました。

新たな時代こそは、過度な「競争社会」から、多様性を認め合い、地球環境と他者との共存を模索し、「共創社会」へ向けた構造改革や、その枠組みの作成を急がなくてはなりません。理由は、差し迫っている地球と、人類にとって喫緊の生存問題が横たわっているからです。

8年前の市長へ立候補した際の、市政のメインテーマ「しあわせが実感できるまちづくり」の到達度、今後へ繋げていくべき重要なポイントなどについて、市長の率直な見解を伺います。

市長1期では、「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまち 沼田」を将来像として、その実現に向けた各事務事業の執行に努め、長年の懸案でしたグリーンベル21を複合施設「テラス沼田」として整備・改修したほか、(仮称)利南運動広場、学校給食センターの整備を進めるなど、ハード事業を中心に進めてきました。2期では、ハード整備の成果を生かしつつ、公共施設等の維持更新が次世代への大きな負担にならないよう、公共施設等総合管理計画の着実な推進により「量から質への転換」を図るとともに「ソフトへの転換」として、市民の健康増進を図る「スマートウェルネスぬまた」等、各種ソフト事業の推進に注力。一例として、スマートウェルネス推進事業では、1年間に参加者の一日平均歩数が3割近く伸び、年平均医療費が1割程度減少したことを確認しています。

心豊かに暮らし、しあわせが 実感できる沼田市とは何？

大量生産・大量消費に必要な
「単一価値・効率重視」型社会

困難とされてきた自然豊かな
利根沼田の潜在価値の顕在化

20世紀 = 高成長 → 裕福 21世紀 = 低成長 → 幸福

卒業へ

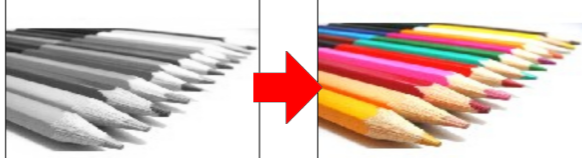
再挑戦

利根沼田定住自立圏構想
= 「風の谷構想」

利根沼田の行政の効率性ではなく
山や谷や川などの地勢・歴史・
文化を再発見・再研磨して魅力度向上



トリクルダウンによる富裕層を一層裕福に！お金は上流から下流へ落ちてくるはずだった。「風が吹けば桶屋が儲かる」「金は天下の回りもの！」循環して景気は良くなることを改めて世間が知ることとなりました。また、近江の商人の教訓には「三方一両得」という言葉も再評価され、企業は会社や株主だけでなく、社会に貢献すべき「公益性」を持つから一種の哲学が必要という考えが主流に…



学校や教育の場でも一番多い集団に「標準」を当てはめる方式の検証が求められ、企業では異物を排除することによる効率追求の限界が表面化しています。画一・効率最優先から、混ざり合うことの相乗効果を考える時期に。モノトーンからフルカラーの時代へ！

利南運動公園管理事業：3,605万7千円
市民体育館管理事業：1,190万5千円
武道館管理事業：7,991万円
トレーニングプラザ指定管理料：2,772万円



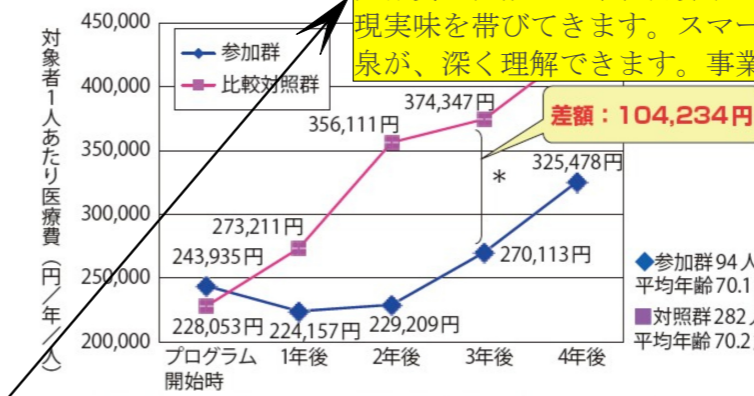
歩けば健康増進！競歩やランニングはスポーツ。民間活力も借りて新体育施設の有効活用で医療費も減少



スマートウェルネスで財源を捻出 無い袖は振れないは市長の口癖

R4年度国保医療給付費約40億円 一般会計より繰入額約3,9億円

医療費1割減少を単純計算すると、市民全体が活動すれば年間4億円の医療費の節減も現実味を帯びてきます。スマートウェルネス推進事業を立ち上げた市長の熱い想いの源泉が、深く理解できます。事業費1,147万2千円には、機能拡大システム委託料が計上。



スマートウェルネス首長研究会HPより掲載こちらでも年間一人10万円の医療費の減少が数値として明確になっています

ルートイン借地代800万円
固定資産税等約1,200万円
リネン室等のメンテ、職員雇用約60人。夕食に市街地へとなると、3千円/人で100人で年間1億円以上という計算です。勿論「獲らぬ狸の皮算用」です。しかし、どんな事業も企業も地域で一体となって取組むかどうかで、その効果も大きく変化することだけは確かです。



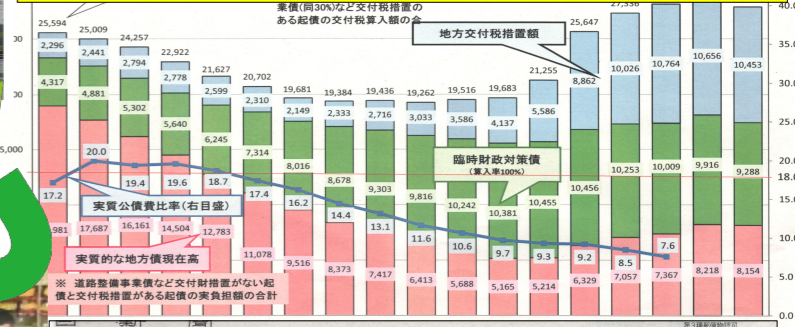
好循環を生み出す

そんなに借金して大丈夫？ 合併特例債を最大限活用

主な合併特例債事業名	金額	内訳
利根小学校校舎改築事業	2億220万円	約60億200万円は国から
庁舎等複合施設整備事業	39億1,660万円	交付税により収入補填
利南運動公園整備事業	18億2,260万円	
給食センター整備事業	14億3,260万円	
武道場整備事業	7億1,730万円	約30億100万円が沼田市返済額
市民体育館整備事業	9億1,170万円	
合計額	90億300万円	

R4年度は19億円返済予定

市債残高は、H17年当時総額約256億円の内190億円が沼田市単独の借金でした。現在は総額約279億円で沼田市単独の借金は81億円で、残りは国の借金と考えて良い残額です

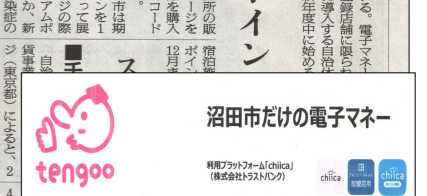


広がる自治体発行の電子通貨

朝日新聞で紹介された地域通貨 = 沼田市 お金の地産地消へ

てんぐー加盟店506店舗
地域通貨「てんぐー」の真の意義は「お金で買えない地域の価値」優しさ
思いやり・コミュニケーションが「沼田市だけの価値」=社会的価値なので、歩くことによる「健康ポイント」との連結もされています。

てんぐー加盟店506店舗
地域通貨「てんぐー」の真の意義は「お金で買えない地域の価値」優しさ
思いやり・コミュニケーションが「沼田市だけの価値」=社会的価値なので、歩くことによる「健康ポイント」との連結もされています。



地元産の温かいご飯給食を提供している新給食センターとイメージ

学校給食を有機栽培で無料化に

財政的裏付け・地域経済好循環 子どもが主役の新時代の柱事業

R4年度学校給食費約2億円は生み出せる

J Aに御協力を戴いて一昨年から開始された新給食センターは、精米機能と高機能なアレルギー対策の施された誇るべき施設で、もっともっと評価されるべきです。私は約4,000食分の固定量の確保により、これまで躊躇していたオーガニック栽培へ沼田市は挑戦できると考えました。理由は、農水省も応援しているし、いすみ市など成功事例も複数件現われているのです。気候変動や食料の不安定さは日増しに深刻さを深め、沼田市の潜在力のひとつと考えたからです。

小水力発電 東吾妻町売電収入=約1千万円 次年度から本格工事に着工の平川取水口 同規模施設の売電収入や市内に設置の太陽光発電の売電収入は約1,700万円/年です。また、R5年度より森林環境譲与税が本格運用されます。バイオマスの利用も拡大したいと考えます。

